

各ユニットでの今後のオンライン授業のあり方の検討状況及び要望等について(各ユニットにおいて令和3年1月から2月にかけて検討した結果)

○今年度のオンライン授業に関する学生からのアンケートに基づき、IR室においてユニット毎の成績評価の状況を踏まえて整理し、説明を受けた後に検討した結果をまとめたものです。

ユニット	①ユニットでの今後のオンライン授業のあり方に関する検討内容	②ユニットの検討内容に係る環境整備内容(概要)
獣医学ユニット	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業における成績評価について <ol style="list-style-type: none"> 1) オンライン試験の際の不正防止対策 2) レポート課題による理解度の評価 3) オンライン授業での学習効果の十分な把握 共同獣医相互提供科目については対面試験を続行 独自開講科目についても対面試験の実施を希望 オンライン授業と対面授業とが続く場合の学生の移動時間について オンライン授業における成績不良者への対応について オンラインで実施する実習科目における教育効果の改善について 実施可能な時期に向けて、対面と遠隔のハイブリッド講義の実施を検討(相互提供科目については、将来的にハイブリッド講義を実施する可能性は高い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習室などへの感染防御対策(アクリル板の追加設置など) ・ハイブリッド講義実施に向けたオンライン受講システムの整備(オンライン受講の学生と対面受講の学生の両者に、教員と講義スライドが見られる状態の担保)
家畜生産科学ユニット	<p>ユニットでの講義実習改善のために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義ごとに提出させる(Moodleを使って)受講レポートなどを介して、科目ごと、講義ごとの意見や印象を組み上げて、できる範囲で対処する。 2. 実習などの受講満足度は主に2点。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家畜に触れる事で味わう満足感(特に知識や技術の習得が伴わなくてもOK) 2) 技術や知識への理解が深まる事での満足感(例:ロープワークの手順がわかった、解剖で骨格の仕組みがわかったなどの達成感) <p>実際の実習、特に人数が多い実習では後ろの人は実習参加度も低く、一回限りの説明ではなかなか理解できない。オンデマンドで比較的短い動画をアップする事で、学生は何度でも好きな時間に学習することができ、達成度がアップする(ヒツジモ刈りの手順などの動画教材が割と評判が良かった)。</p> <p>実習に関して今後の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの教材の充実(通常受講に戻っても教材として活用可) ・人数と時間を限って(例:一回につき10人, 30分)対面実習を組み合わせる ・実習の前の週にオンライン講義を行い、教材(短時間のものを複数)をアップロードし、それに基づき対面実習時に学生に対して明確な目標を与えることで、効果的な実習が可能ではないか。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)オンデマンド実習素材作成のため、撮影機材、動画編集ソフト、医療教育で用いられるようなVR作成ソフト(ウシに触れる、体格測定の実験等が仮想空間でできる) 2)演習などの場合、対面だと1人で多くの学生の面倒をみる事ができるが、リモートだと人手が足りなくなる。TAを増員したい。4年生もTAで雇用できるようにしてほしい。
環境生態学ユニット	<p>アンケートの結果を分析した結果、環境生態学ユニットでは、「機器のトラブルがよく起こる」、「機器のトラブル対処で授業に支障」の意見が多く、また、「音声は途中で途切れず安定」、「音声は明瞭」という意見が少なかった。これらについて岡部講師と相談をした結果、環境生態学ユニットの開講科目の多くで講義室として利用されている研究棟2号館102室のWiFi設備の脆弱さが原因であることが浮き彫りとなった。本件について、入試・教務課とも相談したが、抜本的な対策は難しく、数年後の全学設備更新時期に対応することになった。</p>	<p>左記の通り、1ユニットの概要要望ではなく、設備更新時期の全体対応となった。</p>
食品科学ユニット	<p>座学の授業については先日のアンケート結果から、成績上位の学生はオンライン授業でも全く影響がないことが伺えました。成績下位の学生は多少影響があるようですが、平均では影響があまりなかったことから、今後もオンライン授業でも問題ないと判断します。実習についてはやはりオンラインだけの授業効果については低いと考えており、一部対面もしくは対面が望ましいと考えている。対面を実現しようとする時間をずらして2度同じ内容を実施しなければならないなど実施側の負担が大きくなるなどの問題もあり、実施方法についてはもう少し模索する必要があると考える。</p> <p>オンライン授業を快適に実施するための検討をしたところ、もっとネット環境を充実を推進してほしい、moodleなどの利用を向上するため、オンラインマニュアルなどの充実してほしいなどの意見もあった。また、google school、webex、microsoft teamsなどの充実を図ってほしいなどの意見もあった。</p>	<p>食品科学ユニットでは総合研究棟の実習室におけるネット環境、オンライン実習を実施するための端末、実習専用のzoomなどのID、passwordなどの発行を含めた機器の充実をお願いしたい。</p> <p>また総合研究棟の実習室だけでなく、パン工房や食品加工実習工場などでも実習を行うため、そうした施設内でのネット環境を充実してほしい。</p>
農業経済学ユニット	<p>オンライン講義のアンケート等の結果に関する説明に対する質疑について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もオンラインを希望している学生が多いが、特にメンタル面で不調を抱える学生が多いのではないかと(データからは追跡できないが)、プラスに影響している可能性がある。この点について調べてもいいのではないかと。 ・オンライン講義の場合の試験方法を考えるべきではないか、オンラインで行う試験には工夫が必要。 ・オンラインでの試験方法については、特に教育の質保証の点からも、情報共有が必要ではないか。 ・On-demandで提供している科目の学生評価が高いという報告について、理由としては、時間に自由度が高いことが考えられること。 ・今後、教員が減らされている状況の中であるが、On-demandを利用することで、提供できる科目数を増やせる可能性がある。 ・ただし、これだけでは放送大学のように、教員が大学に存在するからできること(細かな指導など)を、しっかり考えるべきではないか。 	<p>—</p>
農業環境工学ユニット	<p>オンライン授業アンケート結果および本ユニットの成績分析に基づく説明を受けた後、今後のオンライン授業のあり方についてユニット教員間で議論した。</p> <p>アンケート等の結果についての説明は以下のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的傾向として、成績の高い学生は対面での授業を希望する傾向にあること。 ・昨年の授業評価アンケートと比較すると、オンライン授業はGPAが高めになり単位を比較的取得しやすいこと、講義系科目は比較的取得しやすい(前年との違いはない)一方で実技系科目(体育等)については不満の声があること。 ・農業環境工学ユニットの傾向として、学生のGPAが全体的に低めであること、他ユニットと比較してオンライン授業の希望者(割合)が多いこと。 <p>このことを受けて、本ユニットの教員間で議論した結果、以下の認識で一致した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の推移を見ながら、今後しばらくの間はオンラインと対面を併用した講義を継続していく必要があるであろうこと。 ・1年次における現在のユニット分属方法の下では、農業環境工学ユニットに分属される学生のGPAが低い(オンライン授業希望者の割合が多い)という結果は現状としてやむを得ないこと。 ・ユニット分属を視野に入れて、本ユニットの魅力に関係講義等でアピールするなど、第1・第2希望者が増加するよう教員各位がさらなる努力をする必要があること。 	<p>—</p>
植物生産科学ユニット	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の結果から、ユニット所属学生の単位取得率やGPAなどが大きく変化していないこと、2020年度前期に実施したオンライン授業に対する満足度が比較的高いことが説明された。 ・単位取得率に変化がないとしても、オンライン授業では小テストやレポートなどを中心に成績評価を行っており、対面試験を実施していないことから、知識の習得度が下がっている可能性が高いのではないかと意見が出された。 ・2021年度前期からの講義は、基本的にオンライン授業と対面授業を併用しながら進めることになると考えているが、知識の習得度を担保するためには「対面試験」を実施することが望ましく、4月の講義開始時に受講学生に対して成績評価方法を説明する必要があるため、教育支援室や学部教育部会議において、対面試験の実施方法について早急に検討して欲しい。 ・アンケート等の結果から、2021年度以降もオンライン授業を希望する学生が多く、コロナ禍が終息してもオンライン授業の併用を希望する学生が多いこと、オンデマンドでの実施例があることや、オンデマンドに対する学生のニーズがあることなど説明された。 ・これらのアンケート結果に対して、コロナ感染を危惧することに対する要望なのか、単位が取りやすかったり、出席しやすかったりすることが理由なのか、コロナ禍に対する本来の対応とは違った理由で学生が希望するようになっているのではないかと意見が出された。 ・オンライン授業を受けることで、大学に行かなくて良くなったとか、通学時間がなくて便利になったとか、本来の目的とは違った理由で学生が希望しているのではないかと。ストリーミングやオンデマンドで何度も見直せるとか、体調が悪くても授業に参加できるといったポジティブな理由と混同する可能性があるため、学生の意見や要望を聞きすぎることに問題ではないか。 ・オンライン講義によって授業ではGPAや満足度などがあまり変化していないが、実技や体験などを伴うべき実習での 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物生産科学ユニットの実習とゼミの一部をⅡ号館からオンライン配信しているが、建物のWi-Fi環境があまり良くないためネット環境を整備していただきたい。 ・植物生産科学ユニットの実習では、屋外の圃場で作業をすることが多いが、ネット環境が整備されていないためビデオなどをあらかじめ撮影を行い、オンデマンドで配信することで対応してきた。屋外での作業などをライブ配信できるように、ポータブルのWi-Fiルーターなどを準備してもらえると様々な対応が可能となる。